

# 京都教区時報

第243号

発行 京都司教区  
責任者 村上透磨  
京都市中京区河原町  
三条上ル  
カトリック会館  
編集用 TEL・FAX  
077-527-6800  
(滝野)

2・3頁 宣教司教評議会の歩み



新年にあたり、神様の祝福をお祈り申し上げます

京都司教 パウロ大塚喜直

昨年の私の司教任命・叙階に際しまして、皆様からたくさんのお祈りと励ましのおことばをいただき、あらためて御礼申し上げます。

二十一世紀に向かって教会は大きな転換期にあたります。二〇〇〇年の大聖年準備として、今年が「聖霊の年」です。「教会は聖霊の導きに身を委ねること以外の方法で新しい千年期を迎えることはできない」と教皇様は言われています。

私の司教のモットーである「みながつになるように」のとおり、今年も教会共同体に働く聖霊の現存を確認し、その促しに素直に聴き従い、神のみ業を称え、そのみ旨を生きることに於いてキリストと共に歩み続ける一致した共同体作りを致しましょう。

一九九八年元旦

神の母マリアの祭日

(写真は昨年の教区合同洗礼式願式のもので、今年も三月一日に行われます。)

# 宣教司牧評議会の歩み

|      |   |   |
|------|---|---|
| 設立まで | 京都教区ビジョン宣言文：1981年11月23日に発表。その中で、宣教司牧評議会の設立の意見が出た。<br>しばらく滞った後、1984年5月26日修女連から司教へ設立提案が出た。<br>同年5月28日、司祭評から司教へ設立準備委員会の設置を答申した。<br>同年5月30日、司教から設立に向けての呼びかけがなされた。<br>同年9月、設立準備委員会の開催。<br>1985年1月19～20日、第1回宣教司牧評議会の開催。 |   |
| 第一期  | 1985年 宣教司牧評議会発足<br>1986年<br>1987年 各グループのかかえている問題を京都教区ビジョンを見直しながら3つの優先課題としてまとめた<br>①青少年の育成<br>②パイプのつまり<br>③適正配置  | ◎京都教区創立50周年<br>◎NICE-1                                    |
| 第二期  | 1988年 青少年の育成<br>パイプのつまり<情報伝達に関して><br>1989年 パイプのつまり  | ◎青年センター設置答申<br>◎パイプのつまりについての提言                            |
| 第三期  | 1990年 パイプのつまり<br>適正配置<よりよき宣教共同体となるために><br>1991年 適正配置  | ◎パイプのつまりについての再諮問<br>◎現状調査表作成<br>◎アンケート実施                  |
| 第四期  | 1992年 適正配置<br>1993年 適正配置<br>1994年 パイプのつまり   | ◎アンケート・データ表発行<br>◎アンケート解説書発行<br>◎適正配置(答申)<br>◎パイプのつまり(答申) |
| 第五期  | 1995年 司教の小教区訪問・何でも相談室<br>1996年 司教の小教区訪問・何でも相談室<br>宣教司牧評議会の改組<br>1997年 宣教司牧評議会の改組<br><教区長交替のため、4月1日付で解散>   | ◎司教の小教区訪問(答申)<br>◎司牧評改組(答申)                               |

## 印象に残る青年たちの活躍

一期～三期事務局長 平竹洋子

田中司教様の諮問機関として、宣教司牧評議会が発足したのが一九八五年。そして、昨年四月一日、教区長交替のため解散になるまでの十二年間余り、多くの評議員が司教様からの諮問について検討し、

答申しました。

今回の節目に当って、昨年十二月七日、今までの歩みの振り返り

もかねて、感謝の集いが開かれました。関わった評議員、事務局長は百二十名ですが、当日の出席者は五十七名でした。

最初に、ミサで歩みを導いてくださった神に感謝を捧げ、帰天さ

れた六名の評議員の方々のためにお祈りしました。

続いて、今までの歩みについて振り返りが行われ、一期から五期までの課題、取り組み、答申などが各期の代表から順を追って説明がありました。私もこの機会に事務局員として関わった当時を振り返ってみたいと思います。

特に印象深いのは、NICE1での青年たちの活躍です。青年たちは全会議に書記団として生き生きと参加し、青年たちによる地下ホールのミサが行われ、希望と若い力を感じて大変力強く思いました。当時の青年たちは、具体的な目標があったので、それに向かって燃えたということもあったと思います。ですが、あれから十年経った現在はどうでしょうか？ 五十周年記念事業からの提案を受けて、青年センター、アジア交流委員会が設立されましたが、折角燃え上がった青年のエネルギーを持続しても、思うことができなかったのは残念です。

事務局を担当していて感じたことの一つに、評議員の途中交替があります。任期二年(後に、三年に変更)として任命されているにもかかわらず、任期中に交替されるケースです。選出母体で役員交替があつてのことですが、宣教司牧議会評の性格上、評議員は組織へ持ち返ってという責任はないので、続けてくださるようお願いしても、交替してしまわれました。継続審議の議案などは途中交替があると、今までの検討経過について申し送りなどの問題がでてきま

す。そのため、特別な事情のない限り、任期中交替しないのが望ましいと思います。

また、一回の評議会で答申できない諮問については継続審議になります。定例会は年二回（臨時会が入ると年三回）ですから、次回の評議会は六カ月後です。当然のことながら、内容を忘れたり、ぼやけたりしがちです。そのため次の会議に繋ぐための方策を、評議会が常任委員会で講じていくようにすればよかったですのではないかと思います（例えば、考え、提案などを簡単なレポートにするなどして準備する）。

以上のようなことは、四期～五期には改められているかもしれませんが、一期～三期の間に感じたこととして書きました。

集いの最後に、大塚司教様から、ご挨拶と、教区カトリック協議会、宣教司牧評議会の位置づけについてお話がありました。お話の中で、「現在の日本も終戦前の古い体質が残っていて、今頃膿として出てきている。教会も第二バチカン公会議後、すべて新しい教会にはなっていないで、古いものと新しいものの中で私たちは生きています。その中で、よいことをすることはよ

いことですが、よいことの中で何が一番よいことか、その優先順位を考えてよいことをするようにしなければなりません」とおっしゃったことが心に残りました。

聖霊の導きに従い、みんなが一つになつて、イエスのまなざし（視点の変換）で、一番よいことから実行していく努力をしなければならぬと思います。宣教司牧評議会を通して、多くのことを学ばせてくださったことに心から感謝いたします。

#### アンケート解説書の活用を願う

四期～五期事務局員 梅原けい子

田中健一司教様の諮問機関である、宣教司牧評議会の一九九二年～一九九七年まで事務局員として約六年お手伝いさせて頂きました。

この度、教区長交替のために宣教司牧評議会が解散となりました。私は評議員としてではなく事務局員としていろいろお仕事をさせて頂きました。その間を振り返って見ますと、特に印象に残ったこととしては、前任者のご努力により、「よりよき宣教共同体となるために（適正配置）」について、大がかりなアンケート調査が実施され、その集計によって作成されたデー

タ表の発行、また、より解りやすくするための解説書の発行のお手伝いをさせて頂いたことです。毎年、定例又は臨時の常任委員会及び評議会、準備のための事務局会議等、神父様方はじめ多くの評議員のかたがたのご努力が結集されて、最終的にアンケートデータ表と解説書が発行されました。ここでは教区における信徒の種々の意識についての調査がグラフを交えて細かく掲載されており、

当初はアンケートデータ表のみの発刊でありましたが、そのみでは数字的な要約にすぎないとのご指摘があり、更に一歩踏み込んでそのデータがどういうことを意味しているのか「設問」に対して「現状をみれば」という形式で詳しく解説し、今後の教区の指針の一助となるように、検討、分析が加えられ、「京都教区アンケート解説書」として刊行されました。京都教区におけるこの様な解説書は画期的なことだったと思います。編集に携わったかたがたの並々ならぬご尽力を目の当たりにして、今後このデータ表及び解説書が単なるデータだけに終ることなく教区の発展のためにお役に立つことを願わずにはおられません。

宣教司牧評議会が解散となり、今後どのような形になるか解りませんが、司教様の諮問機関として、教会の各層から選ばれた人々が意見を述べ合うことは必要だと思います。同じ教区内においても、それぞれ異なった状況のもとにある教会や、修道会等を代表して来られた評議委員が一堂に会して一つの共同体として、わかちあいをすることは、単に親睦を深めるだけでなく、お互いの立場や、自分たちの置かれている状況を理解する上で非常に役立ったと思います。今後、カトリック協議会等新しい組織が誕生することと思いますが、今まで経験してきたもののうち、良いものは今後も続け、適していないものはほとんど改め、懸案に対して迅速かつ適切な対応ができ、謙遜と愛に満ち溢れた雰囲気の中で物事が話し合われるような組織となつてほしいと思います。私自身もこの経験を通していろいろなことを学びました。ワークショップを覚えたり、会議の進行や話し方等々、又それにも増して一つの目標に対するひたむきな情熱など多くの教訓を得ました。

# インマヌエル

中川博道神父

聖書講座シリーズ「イエスとは誰？」の講演要旨です。

マタイ1・18～25ここから「インマヌエル」という名の由来をみていきたいと思います。神の名とすることでここでインマヌエルという名前が告げられます。同時に「イエス」という名でもあります。新約の時代に生きる私たちにあってインマヌエルという呼び方、これは新約聖書の中でイエスをさして言う時にとっても大切にされてきた言葉です。このインマヌエルと呼びかけられた神、このイエスの意味は私たちにどうという存在としての意味をもっているのでしょうか。また、私たちが究極のところイエスをどのように呼んで生きていこうとしているのか、聖書はどんなことをインマヌエルという呼び名の中から伝えようとしているのか、みていきたいと思います。

## ●神の名の啓示

神の名の啓示というか、神の名を著わされた箇所が出エジプト記3・7～にでてきます。それは、「私はあるというものだ」というところから、これが元々の神の名

です。これはイスラエルの歴史の中で初めて神ご自身が自分の名を証された箇所です。神が自分の名を証するということは、その本質を示す、ありのままの存在を示す、

ご自身を私たちにみせるということとで、それを民に告げ始めたことが聖書の中で神の名の元々の意味です。ヤールウエとはそういう背景を持った言葉です。いずれにしてもモーセに語られた言葉「私はあなたと共にいる」というこの名に集約されていくように神が民にご自分の名前を啓示した根本的な意味は「私はあなたと共にいる」ということです。旧約聖書には「共にいる」という言葉が、インマヌエルに続く表現が百回以上使われていきます。

## ●共にいる者

神が私たちと共におられる。この実現としてマタイがイエスの名を伝えようとした時、「神はいよいよ私たちの苦しみをなぐさめに、いよ私たちの苦しみをなぐさめに、叫びを聞き、その痛みを知って降って来てくれた」そのお方がインマヌエルとも呼ばれるイエス、このイエスによって神は真実の意味で私たちと共におられる者になって

くくださったのです。マタイのイエス体験というのは、この方をとおして神が最初から最後まで共にいる者になってくださったという体験だったと思います。ヨハネも同じだと思っています。ヨハネ福音書のキーワードは「とどまる」という言葉です。ヨハネ14・18をみてください。イエスが私たちの中にとどまるといふイメージがヨハネのイエス体験だったと思います。聖書を丁寧にみていくとイエスがどれほど深く私たちと共にいるということを見方として示されているのか読みとってほしいと思います。

## ●神の思いは「聖体」となっている

では、イエスはどのようにして具体的に私たちの人生にとってインマヌエル、すなわち、神は私たちと共にいてくださる方なのかみていきたいと思います。

イエスが生きた三十数年間は人の目から全く隠れて生活したというのが実際だと思えます。このことを私たちは忘れてはいけません。とだと思えます。このイエスの隠れた日常性ということを思いめぐらす時、私たちの人生もほとんど人の目につかない、他の人となんら変わらない、ごく内輪の人々が認めてくれて、この人々に見守ら

れながら死んでいく、そのような生涯だと思います。そういう私たちの隠れた生涯にイエスもご自身の隠れた生涯をもって共感してくださっていることを私たちは見落としてはならないと思います。すなわち、私たちの日常生活の中に隠されているのか、イエスは言葉で、教えて、生き方で示そうとされたのが宣教の意味だと思えます。

このように私たちの日常を生きる命に共にいる者としてインマヌエルを実現していった人だと思えます。イエスのインマヌエルという名「神は私たちと共にいる」という名、神はそういう名で私たちに呼ばれることを望まれた方です。私たちの人生の隅々まで、私たちの人生の断片まで共にいる者として関わってください、そのことを読みとって行く光なのだろうと思えます。この私たちと共にいたい神の思いは、ご聖体となつて私たちと共にいることを望んでくださった結晶だと思えます。私たちはご聖体をいただく時、そのような方をそっくり自分の生活の中にもう一度受けとめ直しませう。

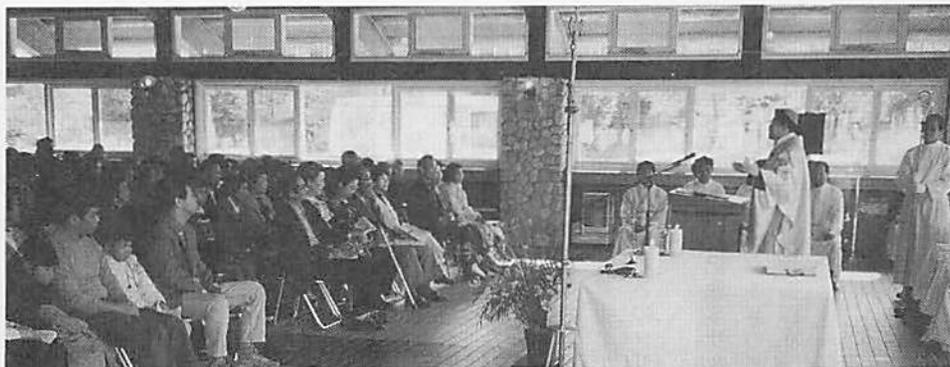
### 奈良カトリック大会 11月9日



奈良県では、毎年テーマを決めて、信徒、修道者、司祭が共に集い、カトリック大会の名の下で、わたしたち共通の課題について話し合っている。

今年も、大塚司教と田中司教を迎え、「ひとつになろう」という司教モットーをテーマに、大塚司教の司式ミサで新しい京都教区の方針を知り、わたしたちのこれからの福音宣教のあり方を確認した。

ミサ後には、大塚司教の叙階のお祝いとともに、田中司教への感謝のために、ささやかではあるが、心をこめたパーティーを行った。



### 帰国宣教者の集い



体験報告会



政本純さん

井爪光子さん

映画「デッドマン・ウォーキング」の原作者のシスター・ヘレン・ブレジャンが、死刑のない社会を求めするために、昨年秋来日されました。この作品には、シスター自身の目を通して、死刑囚と犯罪による被害者の家族という非常にデリケートな立場にいる人々の姿が描かれています。シスターは、この一見相反する立場にある両者の支えになりたいと、長年死刑廃止のための活動と、犯罪被害者の支援のための活動をしています。

### 死刑のない社会を求めて



## お知らせ

## 三重地区の行事

◆ときわハウス二十周年記念パーティー 15日(日)

## 三重県カトリック研宗館

◆三重カトリック協議会例会 11日(水) 13時

◆韓国語講座 毎木曜日10時～12時

◆茶道教室 毎木曜日13時

## 奈良地区の行事

◆マザー・テレサとその世界、映画と講演会の夕べ 14日(土) 18時開場、18時30分開演。奈良市史跡文化センター。主催＝映画「愛の鉄道」制作委員会。後援＝奈良市、奈良カトリック協議会他。会費＝千円。チケットは奈良県の各教会でお求め下さい。

第1部＝映画「マザー・テレサとその世界」。第2部＝講演会「マザー・テレサに学ぶ愛と平和」。講師＝千葉茂樹さん(インド・カルカッタを中心に半世紀以上の、貧困と病苦にあえぐ人々の隣人として尽したマザー・テレサが亡くなって三カ月余り。マザーの生き

方と信仰をフィルムに収めた映画監督。今、マザーを証しするため、その語り部として全国を回り多忙を極めている。

## 滋賀地区の行事

◆滋賀カトリック協議会例会 22日(日)。大津教会

◆堅信合宿 28日(土)～3月1日(日)。草津教会

## 京都北部地区の行事

◆京都北部カトリック協議会総会 予定

## 京都南部地区の行事

◆朝禱会 毎火曜日7時～8時。夕禱会 第2月曜日6時30分ミサ後～19時。河原町教会。食事及び雑費＝三百円。

◆女子カルメル会荘厳誓願式 2日(月) 10時30分(時間変更してます)。誓願者＝イエズスのマリ

ア石川恭子

◆日本二十六聖人殉教記念ミサ 8日(日) 14時。フランシスコの家

◆SVP例会 8日(日) 13時。河原町教会

◆みことばを聴こう 11日(水) 9時30分～17時30分。ドミニコ女子修道院。テーマ＝神を待ち望む

主の再臨について。講師＝米田彰男師(ドミニコ会)。五百円。対象＝青年男女。締切2月4日。075(231)2017安達

◆信睦二金会 13日(金) 10時～13時。西陣教会。会費五百円

◆ベルナデッタの祝日ミサ 13日(金)。聖母学院中等学校

◆聖母学院高校卒業式 14日(土) 13時

◆在世フランシスコ会京都兄弟会例会 15日(日) 13時30分。フランシスコの家

◆ベルナデッタのお祝い 18日(水)。聖母学院小学校

◆河原町教会聖親会総会 22日(日)

◆SVP京都中央理事会 22日(日) 13時。河原町教会

◆糠みその会 26日(木)。九条教会

◆ノートルダム女学院高校卒業式 27日(金)

◆十字架の道行 27日(金) 18時。河原町教会。四旬節中毎金曜日

◆コロチエレステ練習日 第2、4木曜日10時～12時。河原町教会地下ホール

◆西院カトリック会館行事

◆おてんとさんの会 毎週火曜日 13時～16時30分。会費二百円

◆すみえ教室 第2、4木曜日13時30分～15時。講師＝Sr野元品子。会費二千円(二回分)と教材費

◆Srアスタの書道教室 毎週金曜日13時30分。月謝三千元

◆聖書研究と手話の勉強 毎木曜日19時30分

◆文化史講座 4日(水) 10時30分。テーマ＝牛若丸と弁慶

◆河原町カトリック会館行事

◆カナの会例会 1日(日) 13時受付。13時30分～15時

◆京都カトリック混声合唱団 8日(日) 14時、28日(土) 19時

◆レジオ・マリエ京都コミチウム 15日(日) 12時30分

◆一万匹の蟻 18日(水) 19時

◆京都キリシタン研究会例会 22日(日) 14時

## 日本カトリックセンター

◆社会のなかでキリスト者をする 7日(土)～9日(月)。テーマ＝

京都教区福音センター養成コース。二万千円。三十名。

◆生活の中で聖書を読む 3 19日(木)～22日(日)。テーマ＝病者・

高齢者訪問、聖体奉仕者養成。三万五千円。四十名。

連絡052(831)5037

京都教区中学生会の思い出

学校生活より楽しい中学生会

大津教会 村田研吾

僕は三年間で中学生会に五回参加しました。それはこの合宿が楽しかったからです。いつもは会えない友達と会って話したり、遊んだりできるからです。特に、みんなできちんと話ができるから、学校生活より楽しいと感じたのかもしれない。遊んだりするだけでなく、広島へ行って、亡くなった人や被爆した人達のためにお祈りしたり、被爆者の体験談を聞き、これからどうしていいかわからないことを考えたから、非常に自分のためになったと思えました。

中学生会に、京都・滋賀・奈良・三重だけでなく、神奈川からもくる人がいるのが驚きました。さらに、今回の冬の合宿には、今が一番忙しい時なのに、三年生が十五名参加していたので、それほどこの会は人気があるのです。

あんてな (((((( )))

中学生会は今冬の冬の合宿で卒業したけれど、この三年間で作った友達といっしょに高校生会でもがんばっていきこうと思っています。

仲間との思い出を大切に

リーダー 久保直美

今回の京都教区中学生会の冬の合宿で、三年生の卒業式がありました。リーダーとして参加してから、三年生が卒業していくのを三回送り出しました。私も中学生会を卒業してからも、七年もたちますが、卒業式に参加すると、毎回中学生の時の感動を思い出します。卒業していく三年生たちも、何年たっても中学生会で知り合えた仲間との思い出を大切にしていってほしいです。

◆青年センター開館時間  
日・月・金曜日 14時～18時  
水・木曜日 15時～20時  
火・土曜日 休館

((( ))) あんてな

二十一世紀の福音宣教に向かつて(5)

カロンドレットの聖ヨゼフ修道会

◆二〇〇一年の次期総会に向けて、私たち聖ヨゼフ修道会の会員は、一九九七年夏の総会決定事項で示された次の四つの方向性を大切にしながら生きる。

- ▼①地球希望の問題と構造的変革に対する意識を高める。
- ②多重文化的現実を受け入れ、そこから学ぶ。
- ③私たちの聖ヨゼフ修道会会員としての存在の在り方について問い直す。
- ④福音的価値をよりよく伝える方向を探り、現代を生きる霊性を深めていくように努力する。

日本準管区としては、重点的に取り組んでいくこととして「差別と偏見」を選び、日常生活の中の差別的な物の見方や、偏見をなくしていくように努力し、自分自身とまわりの人々への意識改革をはかっていく。

四日市教会(三重地区)

◆一九九八年のテーマ  
聖霊の働きを理解し、教会内の組織のありかたを見直す。

- ▼①典礼、施設、宣教・渉外、育成の各部会の活動。
- ②頂いた聖霊の賜物の勉強会と反省によって、

御恵みを深める。③洗礼・堅信の秘跡の意味を深める。④教会に來なくなった人への呼びかけ、新しく信者になった人等をあたたかく迎える。⑤黙想会のテーマを「聖霊」とする。⑥講師を招いて講演会をひらき、話し合いをする。

上野教会(三重地区)

◆一九九八年の年間プラン

- ▼①聖霊の年に当たり、新約聖書、特に、使徒言行録を元にして、聖霊の働きと教会の福音宣教のあり方を学ぶ。出来れば聖霊降臨祭を信じる者にとつて最初の聖霊降臨と同じ新しい愛と賜物をもたらすものにしていただくために祈る。
- ②御聖堂で各自週一回一時間の執り成しの祈り。
- ③細胞グループのリーダーの週に一回の集会(二つのグループに分かれて)。彼らによる週一回の各家庭集会。
- ④主日のミサ後の新約聖書の研修・分かち合いの集会(月二回)。
- ⑤小さい子供を持つ親の集会。新婚家庭の人々の集会(月に一回ずつ)。

次の世代を担っていく人々に信仰を伝えるために。⑥眠っている信者の掘り起こし。教会に來ていない人々を訪ねる。

教区スケジュール

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 2月     |                         |
| 1日(日)  | 西院教会司教ミサ                |
| 1日(日)  | 修女連總會<br>大塚司教出席         |
| 2日(月)  | 古屋司教命日<br>教区付司祭集会       |
| 2日(月)  | 女子カルメル会誓願式<br>大塚司教司式    |
| 3日(火)  | 聖家族幼稚園<br>カテドラル訪問       |
| 6日(金)  | 大聖年特別委員会<br>大塚司教出席(東京)  |
| 8日(日)  | 宇治教会司教ミサ                |
| 12日(木) | 司教顧問会                   |
| 15日(日) | 四日市教会司教ミサ               |
| 15日(日) | ときわハウス二十周年<br>司教訪問      |
| 16日(日) | 司教総会(東京)                |
| 25日(水) | 灰の水曜日                   |
| 26日(水) | 宣教司牧司教委員会<br>大塚司教出席(広島) |

お知らせ

◆帰天  
▼棚町健之助師(イエズス会)。昨年12月6日。東京で  
▼クイシユメン・テオドロ師(メリンロール会)。昨年10月16日。ア

メリカで  
▼タイタス・キャンベル師(レデンプトール会)。昨年12月18日。カナダで  
◆京都教区・大阪教区合同顧問会議の報告  
大阪教区との合同顧問会議が昨年11月14日(金)に開催されました。目的は、「お互いに何の前提もなく、現実を直視し、社会のニーズに教会がよりよく使命をはたしていく方法を探る。大阪教区、京都教区の双方が互いに何ができるか、フランクに分かち合う」です。次回は3月10日(火)です。

◆大阪教区参加者 池長大司教、松浦悟郎師、神林宏和師、村田稔師、石井望師、松浦信行師、PGマンニ師、神田裕師  
◆京都教区参加者 大塚司教、村上真理雄師、松本秀友師、瀧野正三郎師、西野猛生師、柳本昭師、森田直樹師

◆「京都教区カトリック協議会」設立のための事前相談会の報告  
昨年11月15日(土)に各地区の信徒・司祭の代表、修女連の代表が集まり事前相談会が開かれ、今後の準備方法が確認されました。

●「教区カトリック協議会」規約草案作成チームの選出

●規約草案作成チームが昨年内に原案を作成し、各地区に送付する。  
●2月末までに各地区からの意見を集約し、大塚司教がまとめる。  
●3月14日(土)に、再び各地区からの代表が集まり、その場で大塚司教から規約の再提案があり、規約を決める。

●6月13日(土)に「教区カトリック協議会」を発足させる予定。  
◆聖書講演会「今を生きるキリストを求めて」 講師 中川博道師(カルメル会)。5日(木) 14時~15時30分。テーマ イエスに出会った人々(2) マルタの姉妹マリア。西院会館。七百円。主催 福音センター。連絡 075-(822)7123

◆ポランティア養成基礎講座 20日(金) 10時~11時30分。田辺教会。テーマ 身障児(者)とポランティア。講師 広岡洋子先生。参加費 八百円。主催 カトリックポランティア奈良連絡会。連絡 0742-(47)1298 西原エツ子 福音センター養成コース予定

▼社会のなかでキリスト者をする 2月6日(金)~8日(日)(名古屋)  
▼コミュニケーションコース 4月18日(土)~19日(日)(ウイチタ)  
▼病人訪問コース1 5月8日

(金)~10日(日)(売布)  
▼祈りのコース1 5月29日(金)~31日(日)(唐崎)  
▼生活の中に福音を 6月20日(土)~21日(日)(京都北部・野田川)

▼病人訪問コース2 9月4日(金)~6日(日)(ウイチタ)  
▼祈りのコース2 10月30日(金)~11月1日(日)(唐崎)  
▼コミュニケーションコース 12月5日(土)~6日(日)(三重県 研究館)

◆「一万匹の蟻運動」基金報告 累計17,284,720円  
加入者 864名  
(12月15日現在)

◆編集部よりお知らせ  
お知らせに載せたい情報は、3月号でしたら1月26日までに、4月号でしたら3月2日までに、FAX 077-(527)6800にお願いします。

◆電話番号情報コーナー  
▼いのちの電話(相談窓口) 075-(864)4343  
0742-(35)1000  
052-(971)4343

▼京都市東九条在宅介護支援センター(24時間体制) 075-(662)3971